

令和4年度教育課程研究集会
中学校 外国語

外国語科の指導における 「主体的・対話的で深い学び」の 実現に向けた授業改善について

令和4年8月

奈良県教育委員会事務局

学ぶ力はぐくみ課 教育統計係

指導主事 松本 彩恵

中学校学習指導要領 外国語科の目標

中学校学習指導要領 第2章 第9節 外国語 第1 目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

中学校学習指導要領 外国語科の目標

中学校学習指導要領 第2章 第9節 外国語 第1 目標

【知識及び技能】

(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

主体的・対話的で深い学びの実現 （「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善）

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにする。

【主体的な学び】の視点

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。



【対話的な学び】の視点

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。



【深い学び】の視点

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

主体的な学び
対話的な学び
深い学び

学びを人生や社会に
生かそうとする
学びに向かう力・
人間性等の涵養

生きて働く
知識・技能の
習得

未知の状況にも
対応できる
思考力・判断力・表
現力等の育成



単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るよう
にすること。その際、具体的な課題等を設定し、生徒が外国語による
コミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケー
ションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や
語彙、表現、文法の知識を五つの領域における実際のコミュニケーション
において活用する学習の充実を図ること。

授業改善の視点

具体例

主体的な学び

学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面を設定する。

- ・単元の最初にCAN-DOリストなどを活用して単元のGoalを明確に示す。
- ・振り返りシートやフォームを活用する。

対話的な学び

対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面を設定する。

- ・ペア、グループを活用する。
- ・ICT端末で書いたもの、録音、録画したものを共有する。

深い学び

生徒が考える場面と教師が教える場面を組み立てる。

- ・対話的な学びを通して自らの考えや意見を整理したり、文章を推敲したりする。
- ・答えを与えるのではなく、気づきを促す発問をする。

- ・振り返りの頻度、タイミング、方法

- ・一人一台端末の活用

- ・授業で大切にしていること

 - 「教科書を教える」?

 - 「教科書で教える」?

学習者用デジタル教科書について

<用途>

(生徒)

- ・紙媒体は学校で、デジタル教科書は自宅で使用。
 - ・自宅での自習用（音読練習等）。
- ただしリスニング課題などは限定的。

学習者用デジタル教科書 実践事例集

学習者用 デジタル教科書 実践事例集

2022年3月



https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoukasho/digital/1419745_00003.htm

中学校 単元名: Research Your Topic 第2学年 英語

目標
日本に来たばかりのALTの教師に自分たちのことをよりよく知ってもらうために、互いの好きなものやその理由などについてインタビュー活動を行い、その調査結果に基づいて、学級で人気のあるものや好きなものについて、伝える順番や内容に留意して分かりやすく伝えることができる。

活用ポイント
インタビュー活動をより効果的に進めるために、デジタル教科書の書き込み機能を活用する。インタビュー調査したいトピックや質問を考え、デジタル教科書に書き込みをする。また、インタビュー結果について書き込み機能を使って記録し、記録を参考にしながら、インタビューの内容を伝え合う。

授業展開例 (4時間目/全11時間)

導入	<学習活動> 本日の授業のねらい、流れについて、モデルを示しながら確認する。同時にデジタル教科書のトピック例に基づき書き込み機能等の確認を行う。	<デジタル教科書の活用例> デジタル教科書の書き込み機能を使って、本時の活動のモデルを示す。
展開	調査するトピック及び質問内容を考え、デジタル教科書に書き込む。	インタビュー調査に向けて、トピック及び質問内容について、デジタル教科書に書き込みを行う。

デジタル教科書の活用による効果

活用効果 01
個人のペースで学習を進めることができ、現代の標準的な発音や語彙、表現などの確認、習得ができる。

- 音声読み上げ機能を用い、「読むことに自信がない」生徒や、「もっとうまく読みたい」生徒が自分のペースで音声を確認できるとともに、唇音の表現の中で使いたい表現を引き出す際に発音の確認もできる。
- 音声を止めたり、同じ箇所を繰り返し聞いたりすることにより、音のつながりやイントネーションなどに留意しながら練習することができる。
- 英文と音声が一貫することで、語彙や表現の理解が進み、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに合わせたより適切な表現を身に付けることができる。

活用効果 02
書き込みを通じて自分の考えを深めたり、生徒同士で考えを確認し合ったりすることで、より適切な表現を選んで伝え合うことができる。

- 書き込みした内容を互いに見せ合うことで、文法上の誤りを指摘し合ったり適切な表現に気付いたりして、学び合いの場面を作ることができる。
- これらの書き込みはデジタル教科書に保存されるため、学習の足跡を残すことができ、自分自身の成長や実習に気付くことができる。

学習効果を高める工夫

工夫01
書き込み機能や音読機能を活用し考えの形成や対話の充実に繋げる。
デジタル教科書の書き込み機能や音読機能を活用することで、生徒が事前に伝えたい内容を整理したり、対話を充実させるための表現を教科書本文から引用したりすることが容易にできる。

中学校 単元名: Discover Japan 第1学年 英語

目標
学校紹介レポートを通じて、自分の中学校の魅力や楽しさを小学校6年生に伝えるために、学校行事や部活動、心に残った思い出等について事実や自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる。本時のめあては、写真を使って、過去の出来事について相手に分かりやすく伝えることができること。

活用ポイント
学習を通して、自分が使いたい表現をデジタル教科書に書き込んでいき、そのメモも参考にし、使いたい表現をどんどん引き出せるように促す。また、音声はそのサポートになる場合は、自由に音声を聞かせる。

授業展開例 (2時間目/全10時間)

導入	<学習活動> ALT (JTE) の中学校の思い出を全体で共有し、その内容について質疑応答をする。	<デジタル教科書の活用例> デジタル教科書に書き込みをしながら、内容を想像する。
展開	教科書本文のKateの思い出ブログを読んで、過去形(肯定文)の使い方を確認する。	視聴した後、本文に戻り、意味の分からない単語、読めない単語を区別して線を引く。
展開	教科書の動画を観て、Kateのブログ内容を理解する。	発音やイントネーションなど、あいまいな部分はデジタル教科書を活用し、自分のペースで練習を進める。
展開	一斉練習の後、ペアでリピーティング、シャドウイングなどの音読メニューを自己選択し、練習する。	1回目のやり取りを終えた後、自分がまだ追加情報として伝えたいと思ったことをデジタル教科書にメモして思考の履歴を残す。
展開	ALTやKateのブログの写真、Dellのイラスト等を使って、自分の思い出をペアの友だちに伝える。	伝えたくても伝えられなかった表現について全体で確認をする。
展開	ペアを替えて2回目のやり取りを行う。	読み方についてはデジタル教科書を使って確認する。
まとめ	やり取りに工夫や変更が見られるペアの発表を全体で共有する。	

デジタル教科書の活用による効果

活用効果 01
現代の標準的な発音や語彙、表現などの確認等について個人のペースで学習することができる。

- 音読練習をする際、発音やイントネーションなど、あいまいな部分はデジタル教科書を活用し、自分のペースで練習を進めることができる。
- デジタル教科書のネイティブ・スピーカー等が話す音声を自分に適した速度や聞き易い部分などを重点的に聞くことによって、語彙や表現の習得が可能になる。

活用効果 02
書き込みを通じて自分の考えを深めたり、生徒同士で考えを確認し合ったりすることで、より適切な表現を選んで伝え合うことができる。

- いつでも消したり、書いたりできるデジタル教科書の利点を生かして、自由に書き込むように、日頃から指導をしておくことで、生徒一人一人の思考の履歴を残しておくことができる。
- 例えば、本事例では生徒に好きな写真やイラストを選択させて、思い出と事実に分けて伝え合う活動において、やり取りを終えた後に、自分が友達に追加情報として伝えたいと思ったことをメモさせるようにしていた。

学習効果を高める工夫

工夫01
読ませ方の視点を与え、生徒のペースで読ませる。
デジタル教科書を活用すると、生徒のペースで自由に書き込みながら読むことができる。その際、単元目標の達成の観点から、読ませ方の視点を与えることが重要である。例えば、本事例では「過去形(肯定文)の使い方を確認すること」や「内容を想像して読むこと」を目的として、「①事実、情報の追加、気持ちを区別して読む」「②過去形を探究」「③写真を並び替える」といった3つの視点を与えていた。

工夫02
自分で調べたり、音読練習をしたりする習慣を、日々の授業の中でつくる。
デジタル教科書は持ち帰って家庭学習で活用することもできる。そのため、デジタル教科書を使って自分で分からない単語を調べたり、音読練習をしたりする習慣を、日々の授業の中でつくることも重要である。

担当教師の声
デジタル教科書を活用することで、2つの変化を感じている。1つ目は、音読に対して消極的だった生徒が自分で音声を繰り返し確認しながら、練習できるため、前向きに取り組むようになったことと、発音やイントネーションに対して意識が高まっている。また、2つ目は、デジタル教科書には書き込みが繰り返し可能なため、思考の履歴が残る。自分が使いたい表現や、使えるようになった表現を記録に残したり、内容を広げる時にその履歴を見送ったりすることで、表現の幅が広がっている。デジタル教科書を活用することで、学び方に新たな選択肢が増え、今後もさらに活用を工夫し、生徒の英語を伸ばしていきたい。

して、英語の特徴やきまりに関する

的や場面、状況などに応じた適切な表現を合は、個人の課題に応じて、デジタル教科書を使うことで、思考や成長の履歴が残り、通してその確認を行うことは、文脈の習得につながる。

い生徒が少なからずいたが、デジタル教科書に感じている。あらかじめ取り取りに活用ル教科書の音声再生機能を使って練習・確認ができていた。デジタル教科書は英語に

